

奨学金事務における学校での取組み事例

～「令和元年度 奨学金説明会実施状況調査」回答より～

本事例集は、令和2年2月に実施した「令和元年度奨学金説明会実施状況調査」から、各種説明会時に学校が行っている取組み内容をまとめたものです。

< 目 次 >

1. 学生への周知
2. 返還意識の涵養
3. 経済的アドバイス
4. 返還負担軽減策の周知
5. 学内連携・学生連絡の体制

令和3年7月

独立行政法人日本学生支援機構

1. 学生への周知

- ・ 学生が期限までの書類提出に応じない場合等において、1.学生向けホームページへ掲示 2.学生へ個別メール送付 3.学生へ電話 4.保護者へ電話 5.指導教員へ依頼 と段階的に行うことで、教員、保護者の負担を最小限にし、業務の効率化にもつながっている。

【山梨大学】

- ・ 説明会は数日にわたって開催し、学生が参加できるよう配慮している。また、説明音声を録音した説明会資料を作成し、やむを得ず説明会に欠席した学生には、必ず視聴してもらうことになっていることで、説明漏れがないようにしている。

【三重大学】

- ・ 学内電子掲示板、学内メール、掲示板、学部棟掲示板で案内している。

【大阪市立大学】

- ・ 返還説明会は、学生が都合のよい日時に参加できるよう数回開催し、説明会では要点をまとめた資料配布・説明およびDVD放映を行い、返還義務について周知するようにしている。また、返還説明会に参加できない学生には個別で説明会を行い、要点をまとめた資料配布・説明およびDVDも必ず見せてもらっている。

【A大学】

- ・ 掲示版や学生部委員の教員、助手を通じて行っている。

【愛知学泉短期大学】

- ・ 担任教員からの周知以外にも、校内の掲示板、電光掲示板、学校ホームページ、学校メールマガジン等でも周知を行い、学生及び保護者に情報が行き届くよう工夫している。

【鶴岡工業高等専門学校】

- ・ 学生ホール・昇降口等、特に目に入りやすい箇所へのポスター・案内の掲示をしている。

【国際ティビシィ小山看護専門学校】

- ・ 説明会の案内をメールにて送る際、送りっぱなしではなく学生からの返信を求めて、漏れがないようにしている。

【B専修学校】

- ・ 説明はなるべく少人数で行っている。

【インターナショナル岡山歯科衛生専門学校】

2.返還意識の涵養

- ・ 在学猶予中の者にも返還説明会への出席を案内している。
【香川大学】
- ・ 申込時、面接を実施している。その際、返還シミュレーションを使用し返還意識を持つよう指導している。
【東北医科薬科大学】
- ・ 奨学金採用時、奨学金継続時及び奨学金貸与終了時には、返還予定額を確認し返還の必要性や卒業後の返還について説明している。
【武庫川女子大学】
- ・ 各説明会ごと、冒頭に奨学金が貸与であること、そのため返還が必要なこと、先輩の返還によって後輩の奨学金が捻出されていることを説明するようにしている。また、入学式内にて奨学金関係の説明を行う時間枠を取り、学生本人だけでなく保護者にも一連の流れを説明している。
【大阪保健医療大学】
- ・ 本学独自に「返還確認シート」というものを作成し、学生に提出を求めている。奨学金の詳細(貸与月額、貸与総額、返還回数、割賦金等)について記入させるほか、返還が困難になった際の具体的な対処法、滞納何か月目で個人信用情報機関へ自身の情報が登録されるか、これから奨学金返還を行っていくにあたり感じていることなどを記入し、提出されている。「返還確認シート」の記入内容を確認しながら、返還に不安を感じている学生には窓口において、救済制度について説明を行っている。
【C短期大学】
- ・ 採用時説明会の最初に学生主事から返還の重要性について講話してもらっている。
【徳山工業高等専門学校】
- ・ ”奨学金破産”といった内容の新聞記事や卒業した奨学生の返還にまつわるエピソードを紹介し、返還の大切さを身近に感じ、返還に対する責任感を持つよう促している。
【大阪歯科衛生士専門学校】
- ・ 奨学金申込時に説明をしているが、返還DVDを卒業前に必ず視聴させている。
【奈良県医師会看護専門学校】
- ・ 返還の義務や返還金が後輩の奨学金へと循環していくことなど返還の重要性を、卒業まで繰り返し説明している。
【松山歯科衛生士専門学校】

3.経済的アドバイス

- ・ 継続手続きにおいて、継続願下書き用紙の「本人の収入および支出の計算表」を学生が作成するための補助ツールとして、「学部・自宅通学者用」、「学部・自宅外通学者用」、「大学院生用」にそれぞれ計算式および注釈の入ったエクセルシートを作成して大学ホームページに掲載し、学生がダウンロードして利用できるようにしている。

【三重大大学】

- ・ 日本学生支援機構奨学金だけでなく、日本政策金融公庫の「国の教育ローン」やその他の地方自治体・企業等が運営する各種奨学金についても周知している。

【熊本大学】

- ・ 適格認定「指導」対象者に対し、個別面談を実施し、貸与総額について触れ、借り過ぎていないか話をしている。

【福岡女子大学】

- ・ 年に一度継続願説明時には、必ず保護者と次年度の貸与額について話し合うよう促している。在学中の辞退、増額、減額が随時可能であることを説明し、適切な貸与額を検討することを伝えている。

【美作大学】

- ・ 申込時・採用時に返還意識の滋養を図るとともに、必要適正金額の意識付けを行っている。また継続時に収支の記入の仕方(家計簿をつけることの勧め)を詳しく説明し自身で家計状況を振り返り奨学金の必要額について検討するよう意識づけている。また入力後の家計コメント欄の内容により個別にヒヤリングし奨学金額の見直しの相談等を行っている。

【D短期大学】

- ・ 採用時説明会、継続説明会、返還説明会に、返還時の話しを必ず行う。特に、継続説明会では本人の経済状況にて収支差額を低く設定し、極力余分に借りさせないよう保護者と相談するよう指導している。また、社会人になってからの給与の額面額と手取り額の違い、そこからの返還金額を説明している。さらに併用貸与者は、それぞれ両方の金額を返還するということを指導している。

【北海道医学技術専門学校】

- ・ 個別相談にて日本学生支援機構奨学金以外の奨学金も含めた年間収支シミュレーションや返還シミュレーションを行い、具体的にイメージさせるようにしている。

【E専修学校】

- ・ 継続願説明会時に奨学金を含め、1年間どういう風にお金を使ってきたかを改めて考えるように指導している。その上で、現在貸与している金額が適正なのかどうかを両親で話し合い考えるように指導している。

【F専修学校】

- ・ 個別相談を行い収支のシミュレーションをさせている。

【奈良県医師会看護専門学校】

4. 返還負担軽減策の周知

- ・ 減額返還や返還猶予等の制度を、ホームページや大学独自に作成している貸与終了者への配付物に掲載して周知している。また、市区町村から案内のある返還補助制度を、全部局及びキャリア支援室へ掲示している。

【G大学】

- ・ 返還説明会において、在学猶予、返還期限猶予、減額返還制度等を周知し、返還は困難になった場合等の返還方法の選択肢を明示した。又、返還が困難になった場合は、速やかに奨学金相談センターへ連絡するように周知した。

【熊本大学】

- ・ 説明会時に、所得連動方式等様々な返還方式を紹介している。

【大阪市立大学】

- ・ 返還説明会で地方自治体の奨学金返還免除や返還支援制度について説明している。

【京都女子大学】

- ・ 奨学金採用時、奨学金貸与終了時には、返還時の救済制度として減額返還、返還期限猶予、在学猶予について説明している。

【武庫川女子大学】

- ・ 返還説明時には、DVDを流して説明した上で、返還猶予の制度について補足説明を行っている。全学生が出席する卒業前の事務連絡会でも奨学金について説明を行っている。

【美作大学】

- ・ 返還説明会にて所得連動返還方式や繰り上げ返還精度、猶予・減額制度などについて資料と合わせて説明を行っている

【H短期大学】

- ・ 返還説明会にて所得連動返還方式や繰り上げ返還精度、猶予・減額制度などについて資料と合わせて説明を行っている。

【苫小牧工業高等専門学校】

- ・ 繰り上げ償還等返還方法についての個別相談を実施している。

【I専修学校】

- ・ 機構のホームページに掲載されている減額返還や返還期限猶予の案内をコピーして返還説明会の時に配布している。

【J専修学校】

- ・ 在学中の学生には、卒業後に返還可能な金額の貸与の指導、卒業前の学生には、返還猶予・減額返還の制度の周知をする。

【松阪看護専門学校】

5. 学内連携・学生連絡の体制

- ・学籍担当窓口で学生の身分異動発生時、奨学生については奨学金担当窓口で必要な手続きをするよう指導してもらっている。

【山梨大学】

- ・経済支援担当者間で情報共有をしたり、学部担当者や担当教員から連絡をとってもらっている。

【大阪市立大学】

- ・説明会で説明するとともに、同窓会との連携で卒業生の現状について大学として把握できる体制となっている。

【K大学】

- ・紙媒体での掲示およびWEB掲示配信を定期的に行っている。対象の学生に対しては個別のWEB配信や学生課への呼び出しも行っている。

【L大学】

- ・学籍移動については教務課と連携し、学籍移動状況の連絡が共有できるようにしている。学生への連絡は、掲示のほか主として連絡網(オクレンジャー)を利用して説明会開催の案内や個別呼び出し等を行っている。このほか学生個別への連絡については、携帯電話・アドバイザーを通してなど複数の手段を利用している。

【M短期大学】

- ・学生部委員と教員で連携をとり丁寧な指導を心掛けている。

【愛知学泉短期大学】

- ・専修学校として担任制をしいており、教員を含む全教職員の奨学金に対する理解度の平均化を目指し都度勉強会を実施している。また新任教職員に対し、初任者研修会の中で「奨学金制度について」の講義も実施している。

【N専修学校】

- ・各クラスの担任から直接本人へ伝達、説明会実施状況や各学生の状況を逐一教職員全体へ共有している。

【O専修学校】

- ・教務部長及び学生部長と情報交換を行い、学内での連携をとっている。

【P専修学校】

- ・卒業生は義務的に10年間の同窓会に加入している。住所等が変更となった場合は学校へ連絡させている。

【Q専修学校】